

## 羽二重王国誕生秘話

～ 福井に羽二重を教授した技術者～

福井県立大学地域経済研究所

奥 山 秀 範

(産業考古学会評議員)



### 村野文次郎

(旧福井藩士)

羽二重王国・福井の先覚者で、自ら先進地の技術を福井に導入し、機業家としても成功した有力な業界人である。織物福井の第一歩は、明治9年の伝習生派遣

に始まる。村野は洋式染色法研究のため京都府立染色伝習所へ派遣され、帰福後、その技術普及に努めた。

山岡の紹介で、桐生の著名な織物事業家森山芳平と交渉し、高力直寛の福井招請を実現し、羽二重織物の興隆の基礎を築いた。

### 高力直寛

(旧松山藩士)

明治の第一級織物技術者。羽前松山藩に生まれ、後、桐生に移り森山芳平に師事。その才が認められ、西陣の佐倉常七のもとで、ジャカード織物の



習得、さらに森山の指示で、福井に赴き羽二重織を無償で講習。これが羽二重王国福井誕生のきっかけとなった。後年、教育界に転じ東京高等工業学校（現東京工業大学）の教授として後進の育成にあたった他、織物技術の審査員なども努めた。



### 森山芳平

(桐生の機業家)

早くから織物や染色改良に取り組み、17年には農商務省技師山岡次郎を桐生に招いて染色法の改良に努めた。

桐生織物の名を高める一方、自身または弟子を各地に派遣して技術指導を行った。高弟高力直寛の福井派遣・羽二重講習はあまりにも有名で「羽二重王国福井」の生みの親となった。

## 福井羽二重導入史

|      |     |                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 安政6  | 10  | 福井藩、物産総会所を開設、三宅丞四郎を機業総代に任命し、品質改善等に取り組む                                                                                                                                                                                                        |
| 明治5  | 11  | 京都府が佐倉常七、井上井兵衛、吉田忠七を織物伝習生としてフランスのリヨンに派遣                                                                                                                                                                                                       |
| 明治4  | 4   | <b>山岡次郎</b> 、福井藩留学生として米国派遣（帰国後東京大学教官、農商務省技師）                                                                                                                                                                                                  |
| 明治6  | 2   | 由利公正が岩倉視察団（明治4年出発）から帰国し、絹織物を持ち帰る（旧藩士酒井功に提供し、これが奉書紬の改良、本県絹織物振興へと繋がる）                                                                                                                                                                           |
|      | 5   | ウィーン万博に緑川祐之進、書紬を出品、メダル授与。<br>明治9年フィラデルフィア、明治11年パリ万博でも奉書紬を出品メダル授与される                                                                                                                                                                           |
|      | 12  | <b>佐倉常七</b> ら西陣伝習生フランスからバタタン機、ジャカード機持ち帰る。翌7年京都博覧会で展示実演                                                                                                                                                                                        |
| 明治8  | 1   | 京都府織工場（伝習所）佐倉常七らを教授人に任じ、バタタン機・ジャカード機伝習生を全国から公募                                                                                                                                                                                                |
|      | 6   | 福井の機業家酒井功、仏式バタタン機織機伝習生の京都派遣を敦賀県勧業課に請願                                                                                                                                                                                                         |
|      | 10. | 酒井功の機業伝習生京都派遣要請を敦賀県勧業課が認可、橋本多仲、細井順子の二人を伝習生として京都派遣決まる                                                                                                                                                                                          |
| 明治9  | 7   | 伊藤真（敦賀県勧業課長）が、染色技術の習得のため県費伝習生として村野文次郎を京都への追加派遣、また酒井功の要請により県費でのバタタン機2台の購入を実施                                                                                                                                                                   |
| 明治10 | 3   | 敦賀県廃止となり、嶺北7群は石川県に嶺南4群は滋賀県となる。京都伝習生打切となり細井は福井に戻る。村野は石川県費生として東京に派遣                                                                                                                                                                             |
|      | 4   | 東本願寺福井別院、第2回福井勧業博覧会開催、酒井功がバタタン機出品、橋本、細井は2台のバタタン機で絹布製織技術を公開<br><div data-bbox="397 1220 924 1429" data-label="Image"> </div> <p>酒井功、村野近良（文次郎義父）、緑川祐之進ら士族14人で毛矢町に織工会社創設、ハンカチーフや傘地の製織に乗り出す、細井順子はバタタン機操作の教師として入社<br/> （酒井功ら石川県勧業試験場で傘地の試織を開始）</p> |
| 明治11 | 10  | 伊藤真ら、後に本県金融界の「覇王」といわれ北陸2番目の大型の銀行となる <b>第九十二 国立銀行</b> を設立、認可される（後に織物金融で大きな役割を果たす）                                                                                                                                                              |
| 明治13 | 4   | 伊藤真ら福井商法会議所設立                                                                                                                                                                                                                                 |
| 明治14 | 2   | 嶺北部（石川県）と嶺南部（滋賀県）で <b>福井県</b> を新たに設置                                                                                                                                                                                                          |
|      | 10  | 伊藤真ら本県初の日刊新聞となる第1次「福井新聞」創刊                                                                                                                                                                                                                    |
| 明治16 | 3   | 長浜～敦賀間鉄道暫定開通（柳ヶ瀬トンネル開通による完全開通は翌年）                                                                                                                                                                                                             |
| 明治18 | -   | 県下の絹織物業者に栗田部の製糸家坪田孫助から横浜の羽二重織物と輸出好調の情報が入り、製織方法の研究を行うも実現せず<br>伊藤真ら福井商法会議所が、敦賀に繋ぐ物流道路（春日野道、現国道8号）開削を建議推進（9月着工、明治20年開通）                                                                                                                          |

|       |    |                                                                                      |
|-------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 11 | 村野文次郎が、桐生森山芳平を訪ね羽二重技術者の福井派遣を要請、高力直寛の福井派遣が決まる(交換条件として高力直寛の佐倉常七入門を斡旋)                  |
| 明治 19 | -  | 横浜の小林清作商店(今立郡出身)からアメリカ向け輸出用羽二重の見本と製造注文が職工会社に入り羽二重への関心が高まる。                           |
| 明治 20 | 3  | 桐生・森山芳平機業場の客員技術者高力直寛を、羽二重製織の講師として福井に招請、織工会社で3週間、羽二重製織技術の講習会を開く。これを機に福井で羽二重の製織が開始される。 |
| 明治 21 | -  | 毛矢町の織工会社をはじめ各地に絹織物伝習所が開設される                                                          |
| 明治 25 | -  | この年羽二重生産額、桐生を抜いて全国1位となる                                                              |
| 明治 26 | 5  | 本県機業家 30 人がシカゴ博覧会に羽二重出品、14 人が受賞となる                                                   |



### 参考 1 佐倉常七

西陣の織匠。明治 5 年 11 月京都府の伝習生としてフランスのリヨンに派遣され、翌 6 年ジャガード・ボタンなどの洋式織機を携え帰国。明治 7 年京都博覧会で初運転、実演を行う。後、京都府の織工場や染織学校教授となり、新織法の普及につとめた。本県の細井ジュンにボタンの使用法を教えたのも彼である。(リヨンでの記念写真、右端が佐倉)



### 参考 2 山岡次郎(元福井藩士)

日本の繊維工業(染織)の父ともいうべき事績を残した明治の化学者、技官。福井藩留学生として米国で化学を修め、帰国後は大学などで教鞭をとっていたが、殖産興業に向けて技術者教育の必要性、職工養成の必要性を痛感し、東京職工学校(現東京工業大学)、足利織物講習所をはじめ次々と染織学校を創設。

さらには明治の大工場「日本織物会社」の創設を手伝い、晩年は再び官吏に戻り織物の輸出と品質改良に努めた。

### 参考 3 それからの高力直寛

明治 23 年 9 月 東京工業学校染織工手に就任、明治 26 年助教授、29 年染織工科機織工場長就任

明治 30 年 9 月 欧州 3 ヶ年海外留学フランス・ベルギー正式決定(34 年帰国)

明治 34 年 8 月 東京高等工業学校教授に就任

明治 38 年 5 月 大日本織物協会理事技術委員長就任

明治 43 年 5 月 東京高等工業学校教授退官、群馬県立織物学校校長となる

大正 6 年 5 月 京都市染織学校校長、6 月より京都市染織試験場初代場長就任

大正 10 年 10 月 福井県絹織物同業組合(松井文太郎)より表彰

大正 13 年 3 月 京都市染織学校校長退任、5 月京都市染織試験場長退任

昭和 12 年 6 月 11 日 京都にて没